

レイテ島の農業を壊滅させた 超大型台風ハイヤンからの復興を目指して

カロリーオフセットではフィリピンのレイテ島のDulag町とJulita町で農業支援を実施しています。5万5千人が暮らすこの町では、大半の住民が農業に従事し、米やココナッツを栽培してきました。2013年11月、大型台風ハイヤンがレイテ島を直撃し、主要産業だった農業は壊滅状態に陥りました。

海に面したDulag町では、台風の前日に町長が沿岸の住民を強制避難させたことが功を奏し、死者は19名にとどまりました。しかし、村の9割以上の建物が全壊・半壊し、栽培中だった稲は海水をかぶって全滅し、各家庭や倉庫で保存していた米も流されてしまいました。プロジェクト開始に先がけて、台風の爪痕がのこる現地を訪問し、田んぼやココナッツ畑の状況を視察し、被災した農家に被災状況や将来への懸念などについてヒアリングしました。

8ヶ所

に農園ができました
(2015年6月時点)

被害を受けたココヤシの木



倒木せずに生き残ったココヤシの木も、被災前と同等の実をつけるようになるには、1から2年の歳月が必要です。

「災害に強い作物の栽培方法を学びたい！」



農作業の様子

レイテ島では、約95%のココヤシの木が、折れたり、倒れて、甚大な被害を受けました。新規に作付けした椰子の木が実をつけるまでには、8から10年かかるといわれています。

米とココナッツだけを栽培していた農家は、根菜類や野菜、ハーブなど、災害に強く、短期間で育つ作物の栽培の必要性を強く感じています。



レイテ島は、フィリピン中部のビサヤ諸島の島です。レイテ湾に面した一帯が農業に適した平地で、約190万人の島民の多くが農業に従事しています。大型台風ハイヤンが直撃した中心都市タクロバン周辺は、暴風雨と高潮に襲われ、島全体で1万人以上が犠牲になりました。